

水資源の有効活用と品質向上に効果発揮！



畑地・樹園地の点滴かんがい



畑地かんがいでのかん水装置はスプリンクラーを前提としている。
近年はドリップチューブによる樹冠下かん水を導入する事例が多くなっている。

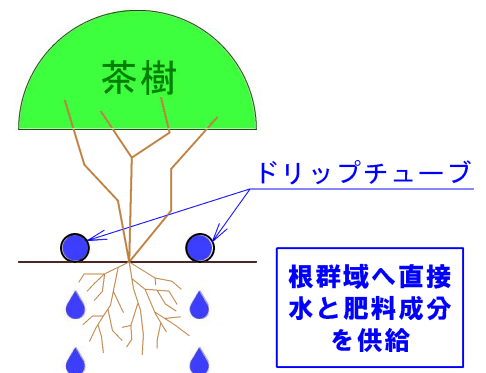
スプリンクラーと点滴かんがいの比較

	スプリンクラー	点滴かんがい
かん水	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場一面への均一散水が可能 ・根域へかん水するためには、多量の水が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・根群域への直接的なかん水が可能 ・少量頻繁かん水により土壌水分の細かい管理が可能
施肥	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場一面への均一施肥が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・根群域への効率的な施肥が可能 ・環境への影響が少ない
防除	<ul style="list-style-type: none"> ・効果あり（可能） 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果なし（不可能）

点滴かんがいの長所と短所

- ◎高い水配分率
- ◎肥料と栄養分の損失最小化
- ×ドリップチューブの劣化・目詰まり
- ×防除は不可能

ドリップチューブによる点滴かんがい



事業者の声

- ・ドリップチューブの敷設は簡易であるため、農家の直営施工により事業費の軽減ができた。
- ・水の有効利用と減肥に繋がることから、環境保全の面で有効である。

農家の声

- ・液肥による施肥が可能になり、肥料代が約半分になった。
- ・施肥やかん水が効率良く適期に行えるため、茶葉が厚くなるなど品質の向上が図られた。
- ・施肥の労力低減が図られた。

かんがい施設の設置状況 (液体肥料タンク)



ドリップチューブ敷設状況